

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	野宮大志郎		
NAME	NOMIYA, Daishiro		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) 被爆者への意味付与プロセスの解明：社会的意味転換への理解に向けて

(英文) Meaning attribution process toward hibaku-sha individuals: Toward understanding the social meaning transformation process

2. 研究期間

2023年度 ～ 2023年度

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文) 1945年8月、広島へ投下された原爆は、ケロイドや四肢変形・欠損による身体的「異形」体であった被爆者は、その後の数十年で、ポジティブでシンボリックな「平和の使者」に変わった。本研究プロジェクトの最終目標は、実体としての被爆者が、社会構成体としての意味を与えられ、概念としての「被爆者」そしてその後には「ヒバクシャ」さらには「平和の使者」へと意味変容するプロセスの解明である。しかし、研究助成期間が1年間であったため、実質的な作業として、意味変容プロセスを観察するために用いるデータ収集作業が行われた（当初2年間の研究計画が、1年間のみに変更を受けたための作業限定である）。

上記作業にあたって、中国新聞（広島本社）を用いて、1945年8月からの1960年までの間の被爆者関連記事全てをピックアップし、文字起こしを行い、テキストデータを作成する作業を計画した。

2023年4～8月まで、新聞縮刷版から関連する記事をピックアップする作業を行い、同時に、文字起こし作業を行う広島大学原子力放射線研究所と会合を重ね、文字起こしの準備を行なった。文字起こし作業は2023年9月から翌年3月まで継続して行われた。1945年8月から1950年3月分の新聞記事までは一応の完成を見た（特定課題研究費による費用支出は2024年1月まで行うことができた）。これが本助成による研究成果である。

今後は、このデータを利用した分析に移行するが、それがなされれば「広島学」と呼ばれる一連の広島研究、そして言説分析領域に全く新しい視点と発見を提供できる。またシンボル論、意味論といった領域にもインパクトのある学問的影響を与えることができる。

(英文) Right after the WWII ended, "hibaku-sha" in Hiroshima were untouchable. Their deformed bodies received a strange look from others; also they were feared to be the source of a contaminated disease. However, the following decades have change this ominous nature of hibakusha into a symbol of peace. A small project conducted in the fiscal year 2023 to collect newspaper articles from August 1945 to March 1950, is part of a larger research project to ask why and how this change in the socially attributed meaning has occurred in relation to hibaku-sha.